

令和元年度第 全国学力・学習状況調査における

本校の結果分析と今後の学習指導の取組について

新宿区立淀橋第四小学校

1 全国学力・学習状況調査について

全国の小学6年生と中学3年生を対象として、学力・学習状況調査が行われました。その結果を受けて、本校児童の結果のまとめと、今後の取組をお知らせします。

2 封筒の内容

・本紙 ・個人票 ・問題用紙

3 結果の分析と今後の取組（△課題、→改善のための本校の取組、◎その他）

実施教科	
国語	△漢字の定着に課題が見られる。 →既習の漢字は国語以外の教科でも意図的に指導していく。 △情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方を工夫する問題が東京都の平均より低い。 →他教科と関連させて、自分の考えや調べたことを相手に伝えていく場を設定する。 △「そこで」「そのため」などの接続語を使って1文を2文に分けて書き直す問題では、正答率が低い。 →日常から一文が長い傾向があるため、作文の指導では接続語の使い方を確認し、一文の長さを意識させていく。 ○東京都、全国平均と共に比べて、ことわざの使い方の例を選ぶ問題では、適切な選択肢を選んでいく。 ◎言語についての知識・理解・技能については、正答率が高い。 →宿題で新出漢字を用いた短文づくりを行い、漢字の活用を高めている。今後も継続していく。 ○4つの領域すべて、全国、東京都よりも正答率が上回っている。特に、読むこと、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項のポイントが高い。 △話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる問題では、無回答率が高く、聞いて考えをまとめる力に課題がある。 →スピーチを行う時に、ただ聞くだけではなく、感想を伝える場を設定することで相手の意図を捉えながら聞く習慣を身に付けさせる。 ○目的に応じて、本や文章全体をから必要な情報を読み取る問題では、正答率が高い。 △「書くこと」については、東京都、全国の平均を上回っているものの、正答率は低い。しかし、各領域において記述式の問題での正答率は平均を上回り、自分の言葉で書き表す力が育っている。 →作文の書き方を基本から指導し、友達と学び合いながら書いたりすることを通して自ら書いてみようとする意欲が高まってきている。今後は主述関係を正しく書き表したり語彙を増やしたりすることでさらに正答率を高めていく。 ○ことわざの意味を理解して自分の表現に用いる問題については正答率が高い。 △目的に応じて質問を工夫することの正答率が、全国、東京都の平均と同じである。 →相手意識をもたせることで、適切な質問の仕方を身に付けさせる。目的、状況、対象を考えて内容を考えるよう国語以外の教科でも指導支援をしていく。

算数	○複数の図形から台形を選ぶ問題では、ほとんどの児童が正答していた。台形の特徴を理解している。 ○棒グラフの読み取り、計算しやすい式にして計算するなどの技能の正答率が高く、資料から必要な情報を読み取る力が付いている。 △数量や図形についての知識・理解については、全国、東京都の平均正答率を下回っている。 →図形については、図形の特性や面積の求め方などについての復習を十分に行っていく。 ○場面の状況からかかる時間を求め、その結果から判断する問題では、単位量当たりの大きさを基に、求め方と答えを導く力の定着が見られる。 △面積の求め方、グラフから水量の増減を判断しその理由を記述で書く、減法の計算の仕方について記述で書く、といった記述式の正答率は全国、東京都と同様に低い。 →式の意味やその理由を説明したり、記述したりする問題において課題が見られる。なぜそのような式が立てられたのかという説明を書いたり、気付いたことや考えたことを書いたりする時間を設け、思考力、表現力の向上を図る。
習慣や学校環境に関する質問紙調査	○「国語の勉強は大切だと思いますか」という質問事項に全員が肯定的な回答をしており、「国語の授業で学習したことは将来、社会に出てから役に立つと思いますか」という質問事項にも9割を超える児童が肯定的な回答をしている。学習の重要性を理解し、取り組んでいるといえる。また「国語の勉強は好きですか」「国語の授業の内容はよく分かりますか」という質問事項には8割以上の児童が肯定的な回答をしている。 ○物事を最後までやり遂げて、嬉しかったことがあるかという質問事項に対して全員が肯定的な回答であった。日常生活や学校生活で達成感や充実感を体験できているといえる。

4 結果の返却とご家庭での活用について

個人票とあわせて、問題用紙を返却しました。ぜひ、総合点だけでなく、教科別、単元別に問題と結果を照合してご覧ください。児童自身で課題を見付け、自主的な学習にも活用してください。

特に、正答率が低い単元があれば、その単元について学習した際の教科書やノート等を使って復習を行います。さらに、正答率の高かった単元については、発展的な課題に取り組むのもよいでしょう。

本校全体の児童の課題の一つとして、定着のための反復学習にとる時間の少なさが挙げられます。今回の学力調査の結果を基に、継続した家庭学習につなげてください。